

小中学校および県立学校における花や木に関する取組について

令和3年6月28日
小中学校教育課
高校教育課
特別支援教育課

1 小中学校における花や木に関する学習の状況について

小中学校では、花や木に関する学習について以下のような教科学習に取り組んでいます。

(1) 生活科

植物を育てる活動を通して、生命を持っていることに気づくとともに、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする心情を育てることを目標として、1、2年生では以下のような学習を行っています。

- ・あさがおやひまわりなどを例に、児童が自ら種をまき、成長の過程を観察し、確かな実りを実感します。
- ・ミニトマトやピーマンなど野菜を種や苗から育て、収穫を体験します。

(2) 小学校理科

身近な植物を育て、観察することをおして、植物のつくりを理解すること等を目標に各学年で以下のような学習を行っています。

- ・ホウセンカやヒマワリ、マリーゴールドなどを例に、植物の成長の過程を観察し、植物の体のつくりや成長の順序について学びます。(3年生)
- ・ヒョウタンなどを例に、季節による植物の成長の様子を観察し、その変化について学びます。(4年生)
- ・インゲンマメなどを例に、植物の発芽、成長及び結実に関わる条件について学びます。(5年生)
- ・ホウセンカなどを例に、植物の体のつくりや養分のつくり方や体内での水の行方などを学びます。(6年生)

(3) 中学校理科

植物の体の共通点や相違点、生命維持の働き、生命の連続性等について以下のような学習を行っています。

- ・アブラナやエンドウなどを例に、花のつくりや体のつくり、植物の分類等を学びます。
- ・タマネギやホウセンカなどを例に、細胞のつくりを観察したり、植物の光合成や呼吸など、生命維持に必要なしくみについて、観察・実験したりして学びます。

- ・植物の生殖についてホウセンカやマツの雌花などを観察して学びます。
- ・生態系における生物の数量的関係について、生産者である植物と消費者である動物との関係を学びます。
- ・人間と環境について学ぶ章では、身近な自然環境の調査として、カイヅカイブキやマツの葉を使い、空気のごちねについて学ぶ調査が例示されています。

(4) 中学校技術

植物の栽培をとおして、育成する生物の成長、育成環境の調整方法等の基礎的な技術の仕組みを理解することを目標に以下のような学習を行っています。

- ・品種改良、育成方法等、作物の栽培技術について学びます。

(5) 総合的な学習の時間（例：小学校）

各学校の教育目標の実現のため、学校の実態に応じて探求課題を設定し、その解決のための取組を行っています。

例えば御浜町では、役場の農林水産課が中心となり、かんきつ学習会と称し、みかん農家や共同選果場の協力を得て、摘果体験や糖度センサー等を使用した選果見学などを行い、みかんを育てるサイクルを学び、地域の特産品についての学習を深めています。

(6) 特別活動

特別活動の取組の一例として、学級活動やクラブ活動、児童会・生徒会活動などにおいて、同学年または異学年の児童生徒が植物の栽培などに取り組む活動があります。

2 県立学校における花や木に関する学習の状況について

高等学校における学習状況については、農業学科を設置する学校や総合学科を設置する学校において以下のような取組を行っています。

(1) 四日市農芸高校・農業科学科施設園芸コース、地域創造科造園技術コース

- ・生徒が整備した学校庭園や農場「みのりの丘」を地域住民に開放し、散歩道として活用。
- ・造園の植栽と管理を学習し、北勢地区の都市部と山間部の間という立地を生かした緑地空間の植栽を研究。
- ・校内花壇の整備。
- ・中学校の庭園剪定。

(2) 久居農林高校・環境情報科・環境土木科 環境保全コース、ガーデニングコース

- ・花苗を栽培し、校内花壇の整備や小学校の寄せ植え講習を実施。
- ・造園の施行と管理を学習し、自然素材を生かした緑地空間の設計を研究。
- ・地域施設や小学校に花プランターを配付。

(3) 相可高校・生産経済科

- ・ペチュニア、ニチニチソウなど花苗を栽培し、幼稚園、中学校、高齢者施設へ鉢植えを配付。
- ・花のもたらす健康への効果など、園芸福祉の概念を学習。
- ・農場に小学生の遠足を受け入れ、小学生とともに寄せ植え作成を実施。

(4) 明野高校・生産科学科

- ・マリーゴールドやキンギョソウ等の1年草の花苗を栽培し、小学校や地域施設に花プランターを配付。
- ・幼稚園での花壇整備に参加。

(5) 伊賀白鳳高校・生物資源科

- ・科目「草花」でパンジーやハボタンなどの1年草の栽培方法を学び、栽培実習を実施。
- ・小学校や地域施設に花プランターを配付。

(6) 飯南高校

- ・スギ、ヒノキなど地域の森林の役割や育林方法、木材の構造や利用を学習。

(7) 昴学園高校

- ・パンジー等の草花の栽培や木材の加工等の活用について学習。

<その他の取組>

- ・全国産業教育フェアにおいて、毎年行われる全国高校生フラワーアレンジメントコンテストに県内代表として2名が参加。(令和元年度は四日市農芸高校、明野高校が参加。)
- ・花の国づくり三重県協議会に参加し、メッセウイング三重で12月に開催される「花フェスタ」のフラワーコンテストに高校生が参加。令和2年度は、花フェスタの代替で行われた「高校生による母の日コラボ商品フラワーアレンジメントコンテスト」に四日市農芸高校、久居農林高校、明野高校の3校22名が参加。

3 特別支援学校における花や木に関する学習の状況について

(1) 小学部

(学習例)

- ・ヒヤシンスの芽が出る様子から花が咲くまでの生長過程を観察。
- ・クラスの花壇でヒマワリやホウセンカを栽培し生長を観察。

(2) 中学部

(学習例)

- ・生徒が育てている花や木を撮影し、生長を記録。
- ・花や木を図鑑やインターネットで調べ、模造紙にまとめたものを、校内に掲示。

- ・卒業記念に植樹した柚子の木の実を収穫。柚子湯（足湯）にするなど季節を感じることができる活動を実施。
- ・プランターで育てた花を、卒業式や入学式の会場に装飾。また、市役所や老人ホームに設置。

(3) 高等部

(学習例)

- ・花の栽培を行うことで、命や環境についての学習を実施。
- ・プランターに植えた花を絵画制作の題材に使用。
- ・育てた花を押し花にして、キーホルダーやマグネットなどを製作。
- ・摘みとったラベンダーの花をドライフラワーにしてサシェ（香袋）を製作。
- ・作業学習で種から育てた苗を、学校祭等で販売。
- ・栽培した藍を、藍作家に提供。
- ・近隣の高等学校生徒との学校間交流の取組として、プランターに花を植えて駅に設置。

4 フラワー・ブラボー・コンクール（以下FBC）の取組について

(1) 趣旨

植物の栽培をとおして、学校環境の美化と児童生徒の豊かな情操教育に努めるとともに、育てた苗を公共施設や児童生徒の家庭などに提供し、地域社会の快適な環境づくりを推進する。

(2) 主催

FBC実行委員会（三重県、愛知県、岐阜県、福井県、静岡県、滋賀県、長野県、名古屋市、三重県教育委員会、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、福井県教育委員会、静岡県教育委員会、滋賀県教育委員会、長野県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社）

(3) 対象

公立小中学校（義務教育学校を含む）、県立特別支援学校

(4) 取組内容

(花壇づくり)

FBC実行委員会から無償配布された花の種子（サルビア、マリーゴールド、メランポジューム、ニチニチソウなど）をもとに、児童生徒が形状や配色など工夫した花壇をつくる。また、希望する学校を対象に、花壇の審査を行い表彰する（校外花壇を含む）。

(花壇指導者講習会の実施)

三重県農業研究所の方を講師として、教員を対象に、植物の育成方法等を指導。

(その他付帯事業)

- ・学校花壇設計図コンクール

- ・花と私の作文コンクール
- ・私たちの学校花壇を描いた写生コンクール
- ・校外花壇コンクール

(5) 参加状況

昭和40年度 107校【初年度】

昭和62年度 154校【参加校数最大時】

令和元年度 61校（小学校42校、中学校13校、特別支援学校6校）

令和2年度 60校（小学校44校、中学校12校、特別支援学校4校）

令和3年度 54校（小学校36校、中学校15校、特別支援学校3校）